

有峰に虹が架かりました。

令和3年(2021)9月4日
有峰森林文化村 指導員

虹は、太陽が出ている「高度」「方向」のちょうど反対の「点」を中心に約42度の円で見える光学屈折現象です。見る場所の周辺や太陽の反対側に雨粒があるとこれがスクリーンとなって映し出されます。光の屈折率は色(波長)によって異なるため外側が赤色内側が青(紫)色に見えます。雨粒の中を1回反射した光が通常(普通に見られる)の虹(主虹)、2回反射した光が副虹で51度と弧形は決まっています。

有峰は盆地地形であるため普段は虹が見えることはできませんが9月4日の夕方それまでの雷雨が止んで陽が差し込んできました。ちょうど外に出ていた霜鳥主任指導員が発見しスタッフ4名で見とれていました。



有峰ビジターセンターと主副虹を見上げる当指導員



主虹 と 副虹 の 色 の 順 番 は 逆 に な り ま す 。

(主虹) 内側 ← 紫 藍 青 緑 黄 橙 赤 → 外側



虹は七色といわれますが、中間色もあり無限の色調です。

気がついてから10分ほどで薄く見えなくなりました。



さらに10分後には日没時間となり西の空が赤くなりました。

この日(9月4日)の日没時間は、18時15分。この時期は毎日1分毎、日没時間が早くなります。